

ご挨拶



皆さまには、日頃からValqua Technology Newsをご愛読いただき、心より御礼を申し上げます。

2021年も半ばへと差し掛かってまいりましたが、昨年からのCOVID-19の世界的な蔓延状況は継続しており、ワクチン接種の進展などにより収束への道筋に光が見えつつありますが、まだ油断が出来ない日々が続いております。一方で、このような困難な状況でも、国際情勢の変化や環境関連への対応は、適格になされていくことが社会全体にとって必要とされ、読者の皆さまにおかれましてもこのような、従来とは全く異なる“New Normal”のビジネス環境下において、新たなかじ取りに様々な工夫をされていることと推察いたします。

当社は、昨年より開始いたしました、3か年中期経営計画“New Frontier 2022”（NF2022）で掲げている成長目標の達成、更には2027年の創業100周年に設定した大きな目標の実現に向けて、本年をコーポレートトランスフォーメーション（CX）元年と位置付けて数々の取り組みを推進しております。これらの活動の目指すところは、既に前々回の中期経営計画であるNV・S7の時より開始した、単なるハードの提供に留まらず更に付加価値を与えるサービスとともに顧客の皆さまにお届けするH&S企業への進化が基本となっております。そして、その上にNF2022でのCX活動においては、当社が提供するデジタルソリューションを組み込んだサービス技術商品が、顧客の皆さまとともにトータルのビジネスに対して革新的なデジタルトランスフォーメーション（DX）を引き起こすトリガーとすべく、国内外の先端技術を取り入れながら当社の伝統的なシールエンジニアリング及びその周辺技術を次世代化技術へと進化させる活動を進めております。また、この活動が生み出していく開発成果として、コロナ禍が引き金となり、全ての産業界でニーズが加速化しているオペレーションの省人化に対しても大きく貢献していくことを期待しております。

世界の産業界が直面するもう一つの大きな課題として、カーボンニュートラルやサーキュラエコノミーと言った言葉によって表現される、気候変動抑制に対する取り組みが挙げられます。この問題については、当社としても産業界の中で応分の責任を果たしていくために、技術開発活動の創出すべき成果としてもR&Dの活動内容に反映をさせる努力を行っております。そのような活動を推進することは、既にメディアでも広く報じられておりますように当社がTCFDに賛同していることにも整合しており、その活動の成果によって当社のESG価値の向上が実現され、ステークホルダーの皆さまからご満足いただける事業成果に繋がっていくことを期待しております。

このような背景の下、今号のテクノロジーニュースでは、特定分野において今後重要性が増して来ることが予想される非常に特長のある高性能シール品、IoTを活用した予知保全技術への展開が見込まれるシステム化商品、そして新たなエネルギー素材として注目が高まる水素関連施設に大きなメリットを与えることが期待されるシール材などの製品について紹介するテーマ内容をメインのトピックスとして取り上げております。

今後とも、当社製品・サービスともども、バルカーテクノロジーニュースを引き続きご愛顧いただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

取締役CTO 青木 睦郎